

令和 2 年度 墨田区立 押上小 学校 経営報告書

令和 3 年 3 月 1 6 日

学校目標	○知・徳・体のバランスのとれた人材育成
目指す学校像	○地域や保護者から信頼される学校
目指す子供像	○挑戦する子 ○つながる子 ○働く子
目指す教師像	○組織的な教育活動ができる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業（導入）では、既習学習を活用した場面を設定する。 学習内容を確実に定着させるため、金曜日の朝学習等を活用して補充学習に取り組む。 1日1回以上、ICT機器を活用した授業を行う。 	B	B
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援指導員を活用し、特別な支援を必要とする児童の支援を行う。毎月校内委員会を開き、支援策について検討する。 放課後学習を改善し、学習内容を確実に身に付ける。 	B	B
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面を活用して、人権教育・道徳教育を行う。 「特別な教科 道徳」で、考え議論する道徳の実践に取り組む。 近隣保育園と小学校訪問等の呼応流活動を行い、文花中学校と部活動体験等の交流活動を行う。 	B	B
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習活動において、「対話的な学び」の場面を設定し、教員の授業力向上及び児童の学力向上を図る。 主幹教諭・主任教諭を中心に、授業力向上をねらいとした授業参観や研修会等の校内OJT研修を行う。 	B	B
	学校は、子供の体力向上を図るための、体育授業、体育的行事に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 「押上かけとび運動」を全学級で行い、運動量を増やす。 体力づくり週間（短なわ跳び、長なわ跳び）に取り組む。 ボールを投げる運動や柔軟性を高める運動を増やす。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> 学習規律は、全校児童が落ち着いて授業を受けていると聞いている。今後、映像配信など様子が分かる工夫をして欲しい。 学力調査や体力調査の数値を意識し、今後も伸ばしていく取り組みに期待している。 		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 週1回生活指導朝会を行い、全教職員で具体的な事例や対応策を共有し、いじめや不登校の未然防止・早期対応に努める。 	B	B
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導部だよりを定期的に発行し、全学級で基本的な生活習慣を身に付ける取組を徹底する。 異学年交流（登校班、縦割り班活動）を通して、思いやりの心や互いに協力する態度を育てる。 	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、具体的な災害場面を想定した避難訓練を実施する。 看護当番による休み時間等の安全看護を徹底する。 	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> 子供たちの安全のため、登校班はこれからも継続していくべきである。 登下校時、元気よくあいさつできる子供が増えてきているように感じている。引き続き指導をお願いしたい。 学校だけに任せるのではなく、家庭や地域の協力も必要である。 		

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	B	・自己申告の面談時等で、各担当者の責任と役割を確認し、効果的な教育活動・学校運営を行う。 ・各担当者が「一改善一工夫」を意識した教育活動を行う。	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	・前例踏襲ではなく、児童の実態に即した教育活動を行う。 ・教育活動後はすぐに振り返りを行い、全教職員で共有し、次の教育活動に反映する。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	B	・全教職員が、危機管理意識をもって職務を行う。 ・日常の安全点検を確実にを行い、危険箇所の共有・確実な対応を行う。改善箇所については、区へ要望する。	B	B
	学校は、組織的な人材育成を行っているか。	B	・主幹会議（管理職、教務主任、生活指導主任）で、進捗状況の確認、経営課題についての意見交換を行う。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・校長のリーダーシップの下、教職員が協力して教育活動を行っている様子が感じられる。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えていくか。	B	・学校便り巻頭で、教育目標や経営方針等、教育活動への取組について、わかりやすく伝えていく。 ・学校ホームページを毎週更新し、教育活動の様子を伝える。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	B	・地域行事やPTA行事への積極的に参加する。 ・学校関係者評価、学校行事や学校公開のアンケートを教育活動に反映させる。	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	B	・月1回、具体的な災害場面を想定した避難訓練を実施する。 ・看護当番による休み時間等の安全看護を徹底する。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	・学校は、保護者や地域と連携して教育活動の充実に努めている。 ・コロナ禍で地域行事やPTA行事に制限があったが、工夫した活動を行えた。			

2 令和2年度学校評価のまとめ

<p>・本校の教育目標「挑戦する子」「つながる子」「働く子」の実現に向けて取り組み、地域やPTAに対して学校経営方針をわかりやすく伝え、理解と協力を求めた。学校評価では、「教育方針や教育活動の説明」の項目で90%の肯定的評価を受けた。</p> <p>・学力向上に向けて取り組みでは、学習習慣の定着を図るための「振り返りシート」の活用、家庭学習の定着に力を入れてきた。その結果、区学力調査結果では、全学年、目標値と同程度、あるいはそれを上回る数値が見られた。算数においては8割が目標値を上回っている。今後も、学力向上推進委員会を中心に学力向上へ取り組みを進め、児童一人一人に学びの喜びを実感させていく。</p> <p>・学年主任を中心に授業力向上に取り組んだ。学校評価では、「教職員の資質の向上」の項目で87%の肯定的評価を受けた。教職員の授業力向上から児童の学力向上につなげていきたい。</p> <p>・学校評価では、「あいさつ」の項目で62%の肯定的評価であり改善の手立てが必要である。コロナ禍の中ではあったが、計画委員会を中心にあいさつ運動に取り組んだ。これからも「あいさつ」をすることの大切さとその意味を考えさせ、全校で取り組んでいきたい。</p>

以上の通り報告いたします。

墨田区立押上小学校 校長 島田 和久 公印